

「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」について

【名称】「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 (Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region)

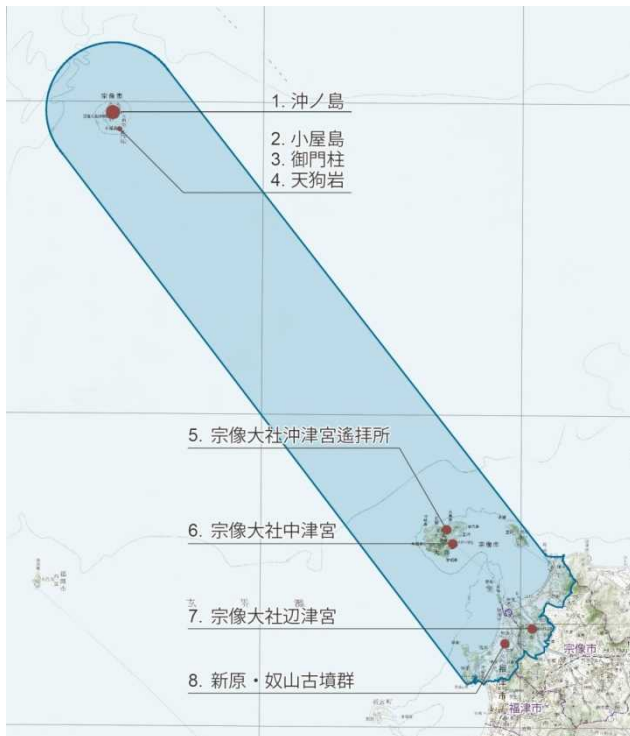
【構成資産】むなかたたいしやおきつみや おきのしま こやじま みかどぼしら てんぐいわ むなかたたいしやおきつみやようはいしよ むなかたたいしやなかつみや宗像大社沖津宮(沖ノ島, 小屋島, 御門柱, 天狗岩), むなかたたいしやへつみや宗像大社沖津宮遙拝所, しんばる むやまこふんぐん宗像大社中津宮, 宗像大社辺津宮(以上, 福岡県宗像市), 新原・奴山古墳群(福岡県福津市)

【暫定一覧表記載年】平成21(2009)年

【概要】

本資産は、「神宿る島」沖ノ島を崇拝する文化的伝統が、古代東アジアにおける活発な対外交流が進んだ時期に発展し、海上の安全を願う生きた伝統と明白に関連し今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証である。

沖ノ島には4世紀から9世紀の間の古代祭祀の変遷を示す考古遺跡が、ほぼ手つかずの状態まで現代まで残されてきた。沖津宮, 中津宮, 辺津宮の古代祭祀遺跡を含むこれらの三つの場は、宗像大社という信仰の場として現在まで続く。18世紀までに成立した沖津宮遙拝所は、上記で述べたような沖ノ島を遙拝する信仰の場である。そして、その信仰を担い育んだ宗像氏の存在を物語る資産が、新原・奴山古墳群である。



沖ノ島



宗像大社沖津宮遙拝所



宗像大社辺津宮



新原・奴山古墳群